

北大植物園



—第38回定時総会・書面表決の実施—

定時総会結果報告

◇令和四年第三十八回定時総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度、一昨年度に引き続き書面表決により行いました。

◇五月上旬、会員二五〇名の皆様に総会資料を送付しましたところ、一七七名の方から返信がありました。第32議案につき承認一七五名、不承認一名、無記載一名、他の議案は、全議案につき全員の承認を頂きました。ここにすべての議案が可決されたことをご報告申し上げます。ご協力誠にありがとうございました。

◇第三十九回定時総会は今のところ五月に開催を予定しています。詳細は北こぶし99号にてお知らせします。



◇発行人 俳人協会北海道支部 大郷石秋
◇発行所 俳人協会北海道支部 事務局
〒005-0841
札幌市南区石山1条2丁目4-18
辰巳奈優美 方

秋の吟行会ご案内

◇新型コロナウイルス感染の収束は未だ見通せない状況ですが、社会活動も徐々に再開されていることを鑑みて、秋の吟行会を開催することにしました。

◇十月十日(月・祝)札幌市の北大植物園を吟行予定です。詳細は裏表紙の「秋の吟行会ご案内」をご覧ください。感染拡大防止のため、今回は昼食の提供は致しません。各自持参(句会場にて黙食可能)または近くのレストランにてお取りください。句会場の会議室は終日使用可能です。お茶は配布予定です。

◇三年ぶりの吟行会ですがやむを得ず中止となった場合は、参加予定者にお知らせ致します。句会場には消毒液を準備し、マスク着用にて万全の対策を取って臨みたいと思いますので、ぜひ会員外の方も誘ってご参加ください。

新春句会・交礼会について

◇新春句会・交礼会につきましては、飲食を伴う行事のため、今年度は中止することになりました。

した。

支部創立四十周年に向けて

◇北海道支部は令和六年に創立四十周年を迎えます。記念行事の一環として北海道支部の歴史を記した記念誌を刊行予定です。来春、作成基金を募りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。詳細および進捗状況は会報にてお知らせします。

(陽 美保子 記)

—会員の皆様へお願い—

現在支部設立四十周年記念誌作成に向けて資料を収集していますが、会報「北こぶし」第16号(平成六年頃)が欠けています。お持ちの方がいらっしやいましたらお借り致したく、ぜひお申し出ください。何卒宜しくお願い申し上げます。

連絡先

俳人協会北海道支部事務局
辰巳奈優美
電話 011-591-4609

俳人協会創立六十周年記念 第十四回 北海道支部俳句大会

選者特選句

◆本部選者

權 未知子 特選

樹の齡磐の齡や滴れり

苫小牧 名取 光恵

角谷 昌子 特選

北洋の怒濤をかぶり鮭を追ふ

札幌 菅原 湖舟

墓目 良雨 特選

三人の蛇の長さに違ひあり

北見 花木 研二

福永 法弘 特選

炙られて火花を纏ふ初鮒

札幌 田森つとむ

◆道内選者

飯川 久子 特選

ちゃんばらの始まる予感軒氷柱

苫小牧 沼田 泥舟

石井こう子 特選

手招きの庭師の先に小鳥の巢

函館 広瀬むつき

生出 紅南 特選

不器用な素数の孤独虎落笛

苫小牧 坂口 悦子

大内 鉄幹 特選

雪しきり沖に島とも礁とも

函館 齊藤ふじお

岡澤 邦彦 特選

電柱に電工ひとり雪猛る

札幌 滝谷 泰星

尾村 勝彦 特選

花の下煙草の毒を旨そうに

新ひだか 岩崎 久子

金行 康子 特選

飲食の音とめて聞く春の雷

札幌 辰巳奈優美

金田野歩女 特選

麦の芽の青空までの百町歩

札幌 陽 美保子

狩野 和子 特選

捨てられし猫のしている十三夜

帯広 三島 裕子

河原 小寒 特選

明日も又来るかの様に卒園す

北広島 高田 小幸

久保田哲子 特選

残欠の石のまひるま浜ゑんど

札幌 森田佳代子

熊谷佳久子 特選

リリースの鮒の銀鱗水の秋

函館 高山 京子

清水 芳堂 特選

山嶺の秋ほしいまま今朝の窓

札幌 藤田 紀子

高橋 千草 特選

枯深し木に坐り木をひさぐ人

札幌 陽 美保子

※カッコ内は得点です。
※同点の場合は、特選句を優先とし投句の到着順としました。

- 一位(14) 樹の齡磐の齡や滴れり 苫小牧 名取 光恵
二位(13) ラ・フランス一個描きて遺筆なる 札幌 小松 正幸
三位(12) 根の国に父は待たせ温め酒 小樽 橋本 末子
四位(11) 信長の髭を手入れの菊師かな 岡崎 水野 幸子
五位(10) 明日も又来るかの様に卒園す 北広島 高田 小幸
五位(10) 渡り鳥逢はねば人の遠くなる 札幌 辰巳佐知子
六位(9) 朝顔や路地の落書消さずおく 札幌 齊藤みつ子
七位(8) 熊の分残しリュックに山葡萄 音更 山西 信一
七位(8) 雪しきり沖に島とも礁とも 函館 齊藤ふじお
七位(8) ひとりづつ渡る木の橋小鳥くる 旭川 佐藤れい子
七位(8) 鍬鎌を納屋にねかせて星まつり 札幌 久保田哲子
七位(8) 記憶みな母につながる更衣 北見 土屋加代子
七位(8) 雪虫や足早に来る往診医 石狩 畑中 貴子
七位(8) 冬銀河還らぬ島に祖父の墓 恵庭 関 静穂
八位(7) 麦の芽の青空までの百町歩 札幌 陽 美保子
八位(7) 手招きの庭師の先に小鳥の巢 函館 広瀬むつき
八位(7) 停学の訳など聞かず大根干す 音更 徳田 則子
八位(7) 三人の蛇の長さに違ひあり 北見 花木 研二
八位(7) 秋蝶の日差し挟みて翅を閉づ 札幌 小島 康司
八位(7) 縋るものなき世を鳴いて残る虫 函館 高木 則子
八位(7) トネルの先に一点雪解光 札幌 岡村 有子
八位(7) 階段を二段上がり夜学の子 旭川 小林布佐子

第十五回北海道支部俳句大会選者

飯川久子(鴻・花桐)	石井こう子(鶴)
生出紅南	大内鉄幹(万象・たかな)
岡澤邦彦(アカシヤ)	尾村勝彦(葦・牙)
金田野歩女(白魚火)	金行康子(アカシヤ)
狩野和子(雲の木・郭公)	河原小寒(壺)
久保田哲子(百鳥)	熊谷佳久子(天・為)
清水芳堂(道)	高橋千草(壺)
田湯岬(道)	辰巳奈優美(若葉)
大郷石秋(秋麗)	土門きくゑ(若葉)
中森千尋(道)	中村英史(方円)
中屋吟月(柏林)	名取光恵(アカシヤ)
成田智世子	西村榮一(壺)
橋本末子(鶴)	橋本和男(天・為・アカシヤ)
畠典子(葦・牙)	花木研二(葦・牙・白魚火)
林佑子(河)	平間純一(白魚火)
森淳子(白魚火)	山下敦(壺)
陽美保子(泉)	

(五十音順)



辰巳奈優美 特選

沖晴れの浦廻ゆるがしラッセル車

札 幌 森田佳代子

田湯 岬 特選

獵銃の先の命や冬の虹

北見 渡部 彩風

大郷 石秋 特選

針箱に母の指ぬき一葉忌

岡崎 水野 幸子

土門きくゑ 特選

子に遺す家なり芒活けてをり

札 幌 奥野津矢子

中村 英史 特選

無観客打球残響雲の峰

札 幌 熊谷 幸子

中森 千尋 特選

熊の分残しリュックに山葡萄

音 更 山西 信一

中屋 吟月 特選

ひと搔きに掛け声ひとつ雪を搔く

札 幌 吉野 早苗

名取 光恵 特選

菜紐引いて夜長の灯を落とす

札 幌 奥野津矢子

成田智世子 特選

鮭骸うぐひの群に弔はれ

天 塩 木谷 洋子

西村 榮一 特選

空乾く屋の十字路寒鴉

札 幌 滝谷 泰星

橋本 和男 特選

停学の訳など聞かず大根干す

音 更 徳田 則子

橋本 末子 特選

遅しく昭和を生きて敬老日

上土幌 坂本 光江

畠 典子 特選

手招きの庭師の先に小鳥の巢

函 館 広瀬むつき

花木 研二 特選

麦の芽の青空までの百町歩

札 幌 陽 美保子

林 佑子 特選

シベリアを誰にも言はず兄の冬

北広島 高田 小幸

平間 純一 特選

不器用な素数の孤独虎落笛

苫小牧 坂口 悦子

森 淳子 特選

シベリアを誰にも言はず兄の冬

北広島 高田 小幸

山下 敦 特選

馬術部の門扉に鎖山眠る

札 幌 小杉 好恵

陽 美保子 特選

吾が生のならの音とも秋くれ

小 樽 橋本 末子

第25回 北海道俳人協会賞

令和3年度の選考対象句集が1冊であったため、
選考は令和4年度に繰越しと致します。刊行句集
は以下の通りです。

令和3年度刊行句集

句集名	著 者	結社名	刊 行
1 花 筏	吉 尾 広 子	道	R3.8.8
2 水 面 鏡	村 岸 明 子	貂	R3.10.27

句集『花筏』は第42回鮫島賞受賞決定の為、選考対象外と
します。

第二十五回北海道俳人協会賞 選考委員

選考条件

磯江 波響（壺）
〇九三〇〇三五 網走市駒場南二丁目
七十五

大澤 久子（天 為）
〇六〇一〇〇〇三 札幌市中央区北三条
西十八丁目二北3条ビル三〇三

高松 暮秋（道）
〇八〇一二四七六 帯広市自由が丘
六三三十八

滝谷 泰星（雲の木）
〇〇四一〇八六七 札幌市清田区北野
七条一丁目十一六

竹内 直治（アカシヤ）
〇五三〇〇四二 苫小牧市三光町
五丁目二十一五十七

① 俳人協会北海道支部会員の
句集であること。

② 令和三年四月一日から令和
五年三月三十一日までに刊
行されたものであること。

③ 対象者は、選考委員各氏と
事務局あて各一冊を送付し
て下さい。

★ 合同句集、遺句集及び既受
賞句集は対象外となります。

※ 任期は二年（選考繰越の場合を除く） 通常、毎年半数を交代

新役員紹介

〇印新任

顧問

林 佑子

〇橋本 末子

相談役

坂本タカ女

尾村 勝彦

中屋 吟月

竹内 直治

支 部 長

副支部長

同

監 事

理 事

生 出 紅南

河原 小寒

小林 道彦

中森 千尋

西村 榮一

平間 純一

〇大内 鉄幹

事務局（規約により支部長が委嘱）

事務局 長

事務局次長

同

〇中森 千尋

事業部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

同 部

中森 千尋

奥野津矢子

〇小林 道彦

陽 美保子

〇宮ケ丁孝子

西田美木子

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

〇中森 千尋

「俳句カレンダー」

令和五年版俳人協会編

体裁

月別 表紙とも十三枚綴り壁掛け

内容 表紙 岡田日郎

太田土男・榎未知子・棚山波朗

名村早智子・上田日差し・根岸善雄

古賀雪江・谷口智行・鷹羽狩行

深見けん二・片山由美子・加古宗也

森田純一郎・和田順子・福永法弘

増成栗人・井上弘美・西嶋あさ子

（掲載月順）、表紙を含み四八七句掲

載。（ジュニアの俳句十五句掲載）

頒価 一部 一、二〇〇円（協会渡し）

送料 一部 七五〇円／二部 一、〇五〇円

三部 一、一〇〇円（郵送料金）

四部以上については実費（宅配

便）

※なるべくグループでお申込み

ください。

発送予定 十月初旬より

申込先 各俳句結社又は各俳句会。個人の方

は、直接俳人協会カレンダー係へ。

お申込みは早めにお願います。

公益社団法人 俳人協会

〒169-8521

東京都新宿区百人町三二一八一十

TEL 03 (3367) 6621

FAX 03 (3367) 6656

振替口座 0016002273

受贈句集紹介

◇「氷面鏡」

(株式会社アイワード)

村岸 明子(貂)

昭和七年旧満州国生れの著者による第三句集。「貂」主宰の星野恒彦氏に句集上梓の希望をお手紙しましたところ、それなら急げ急げとの仰せ、何と有難いこと、万人力のお力を頂きました、とあとがきに記す。

春夏秋冬の部に一九九句が収められている。

・幻の貨車へひらりと終戦忌
・冬銀河むかし消燈喇叭あり
・わが歩み笑はば転ぶ氷面鏡
平和と復興を味わい、家族で海外旅行を愉しむに至った生涯をことほぎたいと主宰の帯文。

(R3・10・27刊)

(奥野津矢子 記)

◇出版物送付のお願い

会員におかれまして、句集など発刊されましたら、一冊を事務局に御寄贈下さい。
北海道俳人協会賞応募作品は別途選考委員にも各一冊お送り下さい。

受贈俳誌より

「アカシヤ」(八月号)

ありがとが口癖となる婆が春

高瀬 恵子

郵便のもう来る頃か水を打つ

石川 富子

開院の小児ホスピスカーネーション

泉澤 正子

夏霧や基地は無言に過ぎりたり

菅原 敏子

父よりも母よりも生き遠郭公

中谷 真風

「葦牙」(八月号)

観世音指に立夏の陽を溜めり

葉山 彰

花吹雪くかつて戦機の滑走路

高谷 節子

ざつくり生きて余祿残さぬ祭好き

さとういづみ

補助輪を外し端午の風の中

要田 清流

一と色の堤となれり路のたう

石田 幸代

「雲の木」(八月号)

飯の世と思へど親し虫の声

池田 北陽

夏柳影こぼれくる連子窓

狩野 和子

万緑や山頂にある美術館

江西 淑江

枝折戸の門細し蝸牛

山内 元子

やうやくに日は落ちゆけり草いきれ

大原登美子

「壺」(八月号)

医師の眼で苗木養生いたしをり

河原 小寒

天上に目標のあり朴の花

西村 榮一

新緑の木漏れ日さやくカフエテラス

山下 敦

先生のあとを児の列蟻の列

寺島 玲子

無人駅つづき植田の豊かなる

田中 滋子

「道」(八月号)

誰彼を選ばず落花しきりなる

三國矢恵子

棄てられし田に郭公の餅かな

関 静穂

二の段の九九の机上の蟬の殻

菊地 穂草

揚ひばり師の言霊に触れて来よ

小林布佐子

師の教へ日々に胸打つ卯波かな

吉岡 睦子

「雪嶺」(七・八・九月号)

春愁や茶に変色の文庫本

荒川 弘子

万緑や山頂池塘に生命あり

佐竹 正治

遥かなる戦火に怯え春終わる

片平 妙子

水温む句帳片手に河川敷

近藤ゆたか

空知野に羽休めたり雁帰る

藤田 保子

会員の皆様へ

会員の皆様におかれまして、入退会また、その他のお問合せの際は、支部事務局 辰巳奈優美
011(591)4609までご連絡下さいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ー お願い ー

会報「北こぶし」は通常メール便にてお届けしておりますので、住所変更の際は、郵便局への届出と別に、支部事務局へのご連絡をお忘れなくお願い致します。

文化と歴史の町・小樽

小樽という地名は、アイヌ語で「オタルナイ」（砂浜の中の川の意味）に由来し、今から三八〇年前（慶長年間）に松前藩の知行地として開かれ、その後ニシンを求める和人の数が増加し、元治二年を小樽開基の年としております。小樽は開拓使により揚陸港として発展してきており、空知地域の豊富な石炭の積出し港としても栄え、明治十三年には札幌、小樽間に鉄道が敷設されています。

今日港湾都市小樽の西には「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」があり、随一の景勝地オタモイ海岸へは遊覧船が運航されています。

祝津地区には「おたる水族館」をはじめ有形文化財の「鯨御殿」や網元の「旧青山別邸」等、このほかマリーナ、日和山灯台等もあり家族で楽しい一日を過ごすこともできます。

ここ小樽では多くの作家画家



小樽を象徴する運河や倉庫

等が生まれ育ち、石川啄木、小林多喜二、伊藤整などの文学碑や歌碑などが立てられ文学館美術館等にその作品が展示されています。

また運河地区には明治、大正期に建てられた石造倉庫など歴史的建造物が数多くあり異国情緒を醸し出しています。これらの建物は現在、ガラス、オルゴールの店舗や地ビール工場等となっており、運河と瓦斯灯の風景は小樽を象徴する名所となっています。

更に過去に幾多の名スキーヤーを輩出した「天狗山スキー場」には山頂までロープウェイ

が運行し、四季折々の展望を楽しむことができます。

手宮地区には、小樽交通記念館があり「しづか号」「大勝号」等の機関車をはじめ交通の歴史が展示されています。

一方小樽市内の奥座敷には朝里川温泉が三方を山に囲まれ、市民に親しまれる閑静な温泉郷としてあります。

▽交通 ▯ JR函館本線小樽駅下車、札幌より列車、バス約三〇分。

平成12年1月5日号

(吉田功次郎)

アイヌ文化学ぶ心を

旭川市周辺には、むかしアイヌの人達が川辺のあちこちに小さな集落（アイヌ・コタン）を作って暮らしていた。

いまは開発がすすみ近文のアイヌ記念館を中心に伝統の民芸品作りや織布工芸・民族音楽など幅広く活躍をしている。特に木彫細工は評判が高く道内外の

観光地に出荷されている。アイヌ記念館は、先代の川村カ子ト氏が建立。昭和五十八年に長男の兼一氏が館長を継承した。館内には狩猟民族の生活用具や刀剣、北海道に棲む鳥獣の剥製などが陳列されていて、狩猟民族の昔を知る事が出来る。また訪れる人の希望があれば昔から伝わる踊を披露してくれる。

記念館から西へ二キロメートル程に、近文アイヌ墓地がある。林に囲まれた二ヘクタール程の静かな敷地にアイヌの先祖が祀られている。墓は木の標で、男性のものは鉾形で先が尖っている。女性のは杵形をしており、



心とアイヌ民族の墓標

それぞれに片仮名で故人の名が彫られている。春は囀りの中で、夏は終日遠く近くに郭公が聞かれ、秋は野菊が咲き乱れる。そんな中に立っている墓標群を見ていると、森羅万象を神々とあがめ、自然の中に生きて来た人達の心が分つて来る様な気がするし、不思議と心が和んでくる。

更に此処より二キロメートル程先にある嵐山(本州から移住して来た人々が形が京都の嵐山に似ているところから名付けられた)にはアイヌ文化伝承のコタンがあり、旭川市の博物館の分館があつて丸木舟などが陳列されている。山の木々の間には、チセ(笹で家全体が葺かれている昔の住居)やプー(食糧庫)などが再現されていてアイヌの人達の往時の生活を偲ぶことが出来る。

これ等を単なる観光として見るのも良いが、アイヌ民族の自然と共に生きて来た心や文化を知ろうという姿勢で対すると、現代の吾々が学ばねばならぬ事が見えて来る。

▽交通 〓アイヌ記念館は旭川駅前から旭川バスで十五分。アイヌ記念館前下車。
平成15年12月5日号

(河村岳葉)

煉瓦と文教の町・江別

札幌市東部に隣接する江別市は自然豊かな「文教」「農業」「工業」そして札幌のベッドタウンでもある、人口十二万人余りの街です。

石狩川河口近くのため縄文時代から人が住み、続縄文時代の住居跡、土器、古墳、アイヌ期のチャシ(砦)なども発見されています。

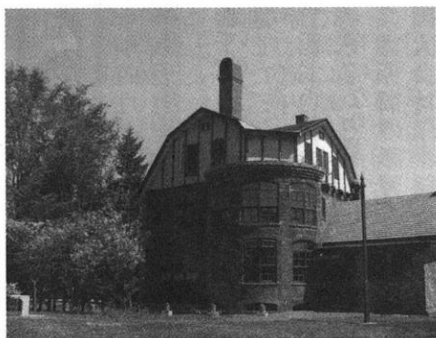
アイヌの人達は「イ・ブ・ツ」(大いなる所への入口)「ユベオツ(鮫のいる川)」と呼び、これが江別の語源だそうです。

道立自然公園となっている野幌森林公園は札幌・北広島・江別の三市に跨る二千ヘクタールを超える原始林です。天然記念物の熊啄木鳥が生息するなど、

動植物の保護も行われています。公園内は遊歩道が整備され、キャンプ場や運動公園もあります。

昭和初期には擦文時代(奈良・平安時代)の江別古墳群が発見され、郷土資料館には出土した四〇〇以上の土器が展示されています。平成十一年、市内に道立埋蔵文化財センターが造られました。道立図書館があり、四つの大学、各種研究施設が集まる「文教のまち」としての顔もあります。

明治中期からは煉瓦が製造され、現在も市内には煉瓦建造物が多数あります。その歴史の中



旧石田邸の「ガラス工芸館」

で、煉瓦・焼物のテーマ館「セラミックアートセンター」が造られ、企画展示・体験教室が開かれています。また煉瓦建造物の象徴として「旧石田邸」(昭和二十年頃築)が改修され「ガラス工芸館」として製作見学・体験も出来ます。二〇〇四年には「江別の煉瓦」が北海道遺産に登録されました。

道内の陶芸家やガラス作家、サークル等四〇〇店近くが一堂に会し、作品を販売する「えべつやきもの市」が、毎年七月の第二土・日曜に江別駅周辺・セラミックアートセンターで開催されます。

▽問合せ 〓江別市役所経済部 商工振興課

電話 〇一一三八一一〇二三
平成20年1月5日号

俳人協会編『ふるさとの情景』
(西田美木子)

(東京四季出版)より



第15回俳句大会 作品の募集

- 募集句 雑詠 (自作未発表作品であること、
前書き・ルビは不可)
2句1組 (何組でも可)
本号同封の所定用紙をご使用ください。
(用紙のコピー可・A4版原稿用紙可)
- 投句料 1組につき千円
(小為替又は現金書留で作品と同封のこと)
- 送り先 〒069-0804
江別市野幌美幸町12-4
西田美木子 方
俳人協会北海道支部第15回俳句大会係宛
- 投句受付 令和4年10月1日(土) から
- 投句締切 令和4年12月25日(日) 当日消印有効
- 選者 俳人協会北海道支部会員各氏に依頼
- 入選発表 「北こぶし」第99号紙上(令和5年3月発行)
- 顕彰 上位入選句ならびに選者特選句
令和5年5月21日(日)の俳人協会北海道支部第39回定時総会席上にて
- その他 明らかな誤字以外は応募原稿のとおりに印刷します。又、類句・二重投句については入賞を取り消すことがあります。
(出句後の訂正はお断りします。)
尚、応募者全員に作品集を差し上げます。

◇ 秋の吟行会ご案内 ◇

- 日 時 令和4年10月10日(月・祝)
- 集合場所 植物園入口
- 集合時間 受付 10時00分～
- 吟行場所 北大植物園 (入園料420円)
- 会 費 1,000円 (会場費他)
- 句会場 かでる2・7 会議室730
- 投句 嘱目2句
- 投句締切 13時00分
- 句会 13時30分～16時00分(進行により変更有り)
- ◇参加申込締切 9月30日(金)
※本号同封の出欠葉書による

【連絡先】〒005-0861

札幌市南区真駒内332-486
俳人協会北海道支部事務局
TEL・FAX: 011 (591) 1198
事業部 奥野 津矢子

事務局&編集室



◆今年四月、結社「白魚火」の通巻八百号記念特集号が発行されました。招待作品に「壺」の高橋千草主宰より「明くるまで」と題した三句を御寄稿戴きました事は道内に住む白魚火会員として誠に嬉しく、感謝の気持ち一杯になりました。

コロナ禍の影響で、札幌での全国大会は二年続けて中止となり、今年は十月に東京で記念大会が開催される予定です。

暫くお会いしていない誌友はお元氣なのかと心配していましたが、笑顔で再会出来る事を願っています。でもマスクの顔で解らなかつたらどうしようと余計な心配をしてしまうこの頃です。感染者が増えてきて不安は続きますが四回目のワクチン接種券が届きました。

(奥野津矢子)

◆最近、日中の暑さを避け早朝の涼しいうちに家事を済ませる事にしている。その空いた時間でゆつくりと朝刊の紙面を繰るのが日課となった。今朝は若宮正子さんの写真が目にとまりました。若宮さんと云えば定年後始めたパソコンで、八十一歳の時にはゲームアプリを作成し、世界最高齢プログラマーと称された方である。国連本部でのスピリチャ、昨年はデジタル社会構

編集後記

想会議の構成員にもなられた。何歳になっても好奇心を持ち続け、既成概念に捕らわれない柔軟な発想は多くの人々の共感を呼ぶ。「学ぶ事に終わりはない」若宮さんの笑顔はそう語る。

(宮ヶ丁孝子)

▽本年度の定時総会書面表決並びに俳句大会に多くの方々のご協力をいただきました。事務局一同心よりお礼申し上げます。

▽本号には、第十五回俳句大会投句用紙および秋の吟行会の返信はがきを同封しました。秋の吟行会は三年ぶりの開催です。会員の方はもちろん、会員外の方もお誘いの上、どうぞ積極的にご参加ください。吟行会の返信はがきには、会員の一句欄もあります。出欠如何に関わらず、一句を記入して返信お願いします。

▽現在北海道支部四十周年に向けて、記念誌を刊行準備中です。進捗状況などは、会報にてお知らせします。

▽コロナはいづつ収束するのかわ見通しが立たず、世界情勢も悪化する一方で、暗いニュースばかりですが、こんな時こそ俳句が身に寄り添ってくれると信じています。皆様と秋の吟行会でお目に掛かれますことを楽しみにしています。

(陽)